

山 市議団週報



遠藤隆 岡田哲夫

No.244

26. 2. 12

日本共産党
郡山市議団
郡山市深沢2

丁目 10-12

☎922-3801

☎932-1903

第2回報告「兵庫県尼崎市」

公共施設マネジメントの取り組み

尼崎市の人口は約46万人。一人当たりの公共施設延床面積が郡山市と同様に大きく、少子高齢化時代を見据え、その縮減が求められています。基本方針は、①再編、②予防安全、③効果的・効果的な運営の3点です。

○再編の具体例

・老人福祉センターと地域体育館の機能統合
年齢関係なく誰もがスポーツに参加できる、介護予防としてのフレイル対策

・新図書館の整備

図書館と女性・勤労者婦人センターの機能統合、新たな男女共同参画の拠点整備

○予防安全について

・既存施設の長寿命化改修実施

○効果的、効果的な運営

・電気、ガスの入札実施によるコスト抑制を進めている。

尼崎市の公共施設管理計画には、基本的には廃止という観点はありません。さらに、基本的な市の姿勢として、住民の理解と納得を基本としていることです。郡山市も、市民への周知、理解のために、市内各地で説明会を開催しましたが、まだまだ、市民の理解を得たとは言えない状況です。

説明パンフをつくり、全戸配布

尼崎市は、事前調査で、公共施設マネジメント（今後、市の施設をどのように管理運営していくかの計画）が、市民に知られていないことがわかると、まず、分かりやすい8ページのパンフを作成し、全戸配布を行いました。

何が自民党を大勝させたのか！？

8日投開票された衆院議員選挙で、自民党は高市人気により118議席増やし316議席になった。議席増となった維新36議席（+2）、国民28議席（+1）、参政15議席（+13）、みらい11議席（+11）を含め、議席減の中道49議席（-118）、共産党4議席（-4）、れいわ1議席（-7）等、多くの政党がそのあおりを受けた。議席が増加した国民にしても、当初は野党第一党を目指していたわけだし、参政党の場合は神谷代表が「今回は75点」と語ったように、参院選のようなブームを起こすには至らなかった。躍進ということであればみらいは該当するかもしれないが、「消費税引き下げより、社会保険料引き下げを優先させるべき」と本来比較すべきでない施策の2者択一は、結局有権者の選択を惑わすだけの存在と言わざるをえない。つまり、高市人気に弾き飛ばされたこれらの政党はもうブームが過ぎた政党なのであり、いずれブームが去ってしまう政党なのだ。維新がなぜ減らなかったのか理解に苦しむが、選挙戦では「高市政権が進める改革のアクセル役を果たす」と強調したという。やはり、高市人気にあやかっただにすぎない。それでは、自民党史上最高議席を生んだ高市人気とは、何だったのか。民友紙の記事から拾うと、<首相が手を振ると歓声が上がり、同行者は「まるでアイドルのコンサートようだ」と驚いた。30日の福岡市は1万人（党発表）を記録した><X（旧ツイッター）のフォロワー数は265万人と他の党首を突き放し><県連の重鎮は「無党派の若い世代が結果を大きく動かした。高市首相が旧来のリーダーと違い『変えるべきものは変える』『結果を出す』と堂々と言う様子が共感を得たのでは」と分析>・・・やはり、SNSと街頭宣伝の相乗作用による「何かやってくれそう」という虚像が旋風を巻き起こしたと見るのが正しいのではないか。